

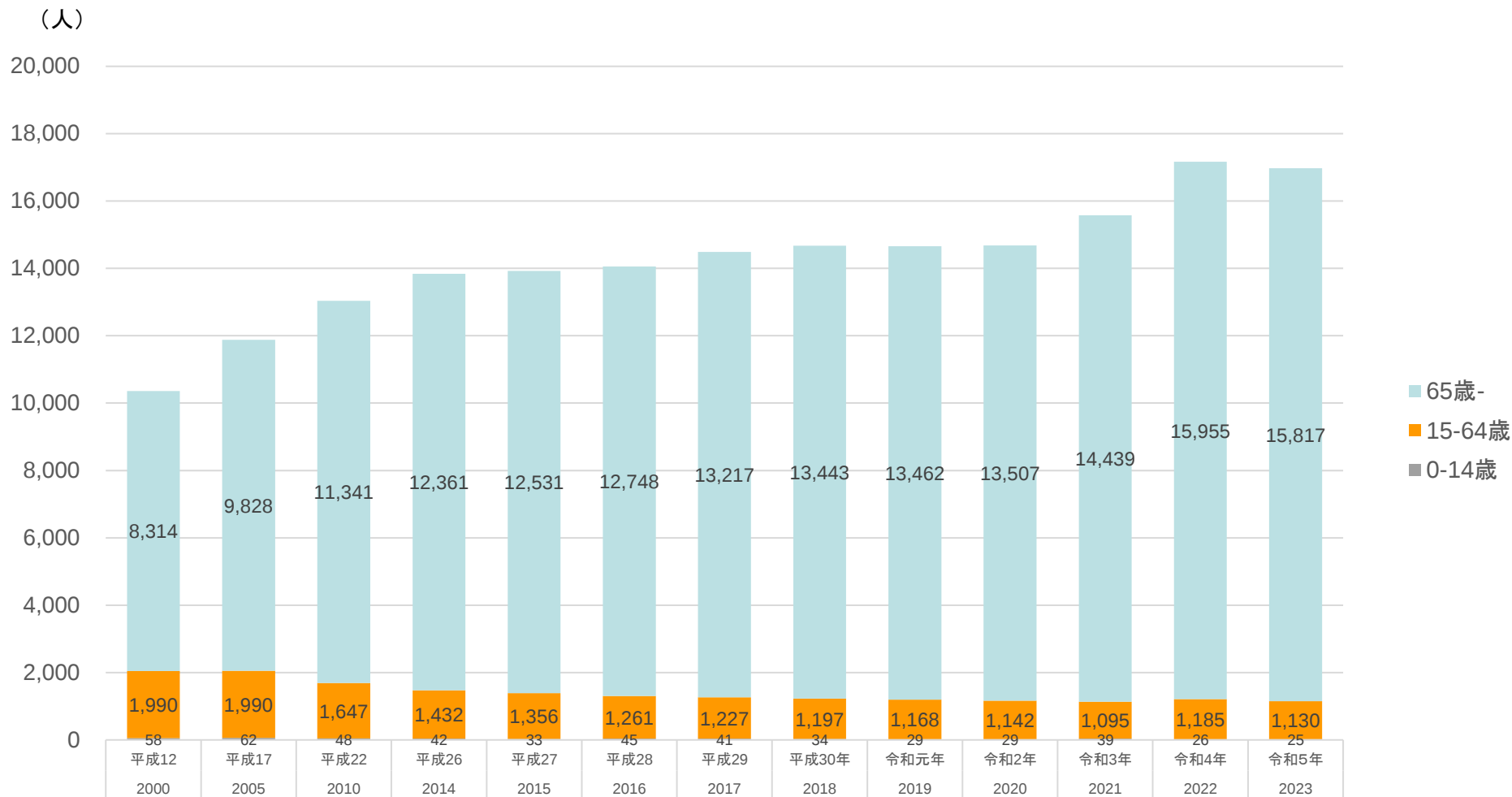
奈良県における死亡の現状について

（令和7年度作成）

奈良県地域医療連携課

死亡者数の推移(奈良県)

- 2023年の死亡者総数は**16,972**人であり、約20年前の2000年から1.5倍以上増加している
- 年齢階層別に見ると、年々65歳以上の割合が増加し、2015年以降は死亡者数のうち9割以上を65歳以上が占める



死因分類別 死亡数・構成割合・死亡率(全国/奈良県)

➤ 全国と奈良県で全体の死亡率に大きな差はない

死 因	全国			奈良県（総計）		
	死亡数	死亡総数に占める割合（%）	死亡率（人口10万対）	死亡数	死亡総数に占める割合（%）	死亡率（人口10万対）
全死因	1,576,016	100.00	1,300.4	16,972	100.00	1,327.0
病死、自然死	1,463,523	92.86	1,219.0	15,885	93.60	1,255.2
外因死	74,373	4.72	61.4	707	4.17	55.3
不慮の事故	44,440	2.82	36.7	412	2.43	32.2
交通事故	3,573	0.23	2.9	36	0.21	2.8
転倒・転落・墜落	11,784	0.75	9.7	149	0.88	11.6
不慮の溺死及び溺水	8,993	0.57	7.4	35	0.21	2.7
不慮の窒息	8,644	0.55	7.1	68	0.40	5.3
煙、火及び火災への曝露	1,004	0.06	0.8	12	0.07	0.9
有害物質による不慮の中毒及び有害物質への曝露	537	0.03	0.4	3	0.02	0.2
その他の不慮の事故	9,905	0.63	8.2	109	0.64	8.5
自殺	21,037	1.33	17.4	194	1.14	15.2
他殺	229	0.01	0.2	-	0.00	-
その他の外因	8,667	0.55	7.2	101	0.60	7.9
特殊目的用コード	38,120	2.42	31.5	380	2.24	29.7

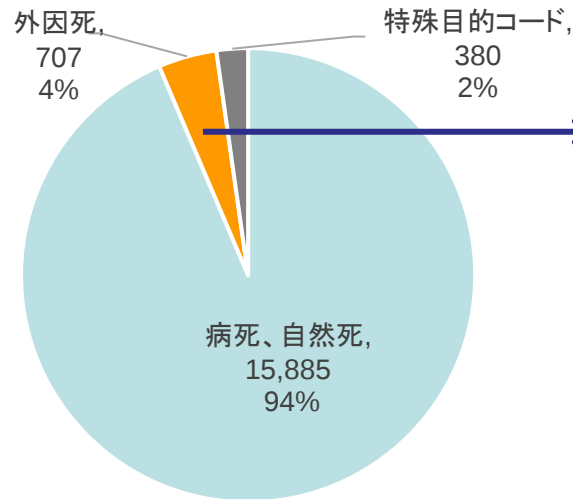
出典：令和5年人口動態統計

- ・上巻 死亡 第5. 19表 死因(死因簡単分類)別にみた都道府県(特別区-指定都市再掲)別死亡率(人口10万対)
- ・下巻 死亡 第4表 死亡数, 死因(死因簡単分類)・性・都道府県(特別区-指定都市再掲)別

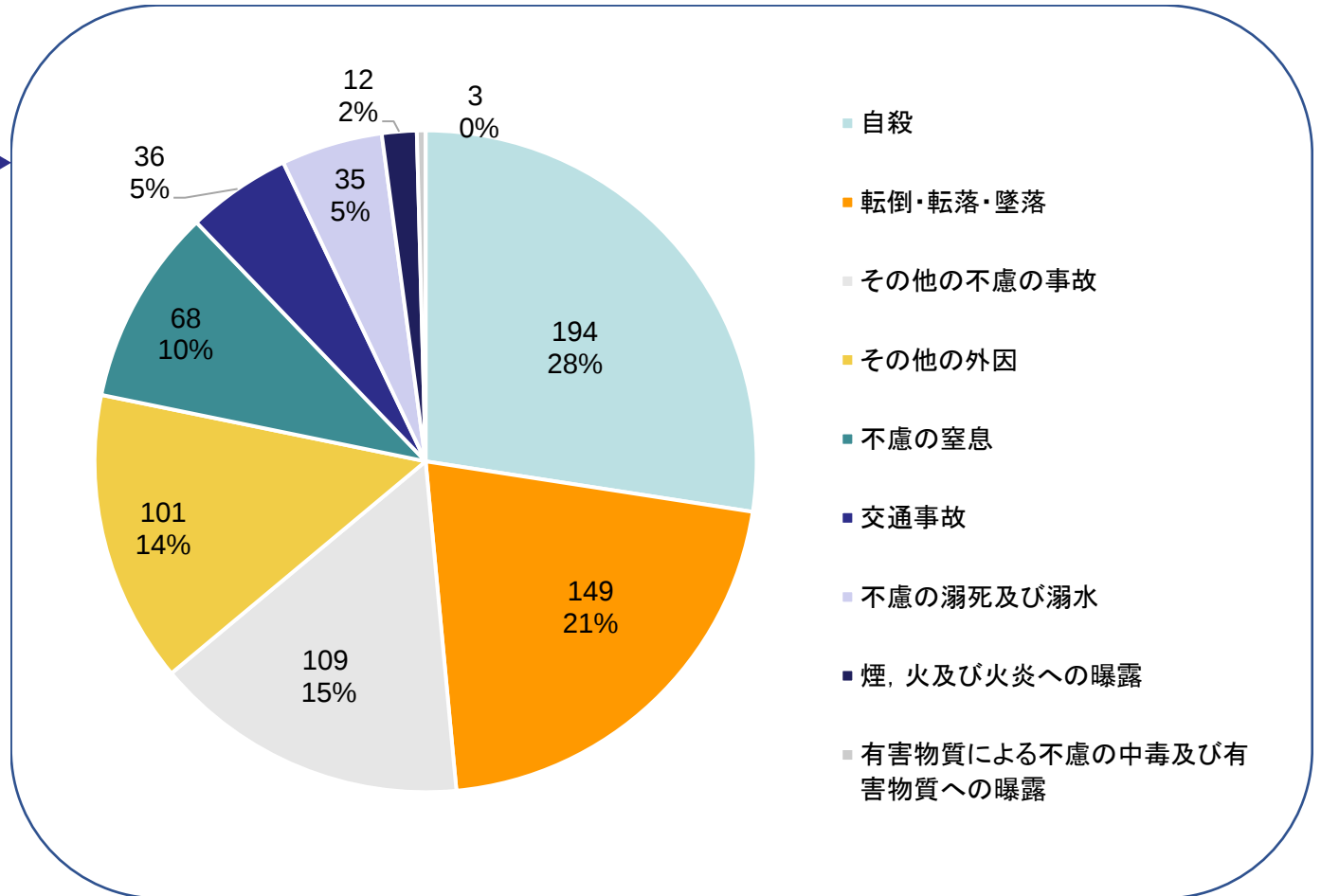
死因分類別 死亡数・構成割合(奈良県の詳細)

- 死因に占める「外因死」の割合は約4%である
- 外因死の内訳は、「自殺」「転倒・転落・墜落」が多く、全体の約半数を占める

2023年 死因



外因死の内訳



死亡割合・死因順位別年次推移(全国)

- 2000年以降、悪性新生物(がん)が死因の1位、心疾患が2位となっている
- 2017年には老衰が4位にランクインし、2023年時点では3位である

年次		第 1 位			第 2 位			第 3 位			第 4 位		
		死 因	死亡数	死亡率	死 因	死亡数	死亡率	死 因	死亡数	死亡率	死 因	死亡数	死亡率
2000	平成12	悪性新生物	295,484	235.2	心疾患	146,741	116.8	脳血管疾患	132,529	105.5	肺炎	86,938	69.2
2005	平成17	悪性新生物	325,941	258.3	心疾患	173,125	137.2	脳血管疾患	132,847	105.3	肺炎	107,241	85.0
2010	平成22	悪性新生物	353,499	279.7	心疾患	189,361	149.8	脳血管疾患	123,461	97.7	肺炎	118,888	94.1
2011	平成23	悪性新生物	357,306	283.2	心疾患	194,926	154.5	肺炎	124,749	98.9	脳血管疾患	123,867	98.2
2012	平成24	悪性新生物	360,963	286.6	心疾患	198,836	157.9	肺炎	123,925	98.4	脳血管疾患	121,602	96.5
2013	平成25	悪性新生物	364,873	290.3	心疾患	196,723	156.5	肺炎	122,969	97.8	脳血管疾患	118,347	94.1
2014	平成26	悪性新生物	368,106	293.5	心疾患	196,931	157.0	肺炎	119,652	95.4	脳血管疾患	114,209	91.1
2015	平成27	悪性新生物	370,362	295.5	心疾患	196,127	156.5	肺炎	120,959	96.5	脳血管疾患	111,974	89.4
2016	平成28	悪性新生物	373,088	298.4	心疾患	198,070	158.4	肺炎	119,346	95.5	脳血管疾患	109,353	87.5
2017	平成29	悪性新生物<腫瘍>	373,365	299.5	心疾患	204,868	164.4	脳血管疾患	109,896	88.2	老衰	101,411	81.4
2018	平成30	悪性新生物<腫瘍>	373,584	300.7	心疾患	208,221	167.6	老衰	109,605	88.2	脳血管疾患	108,186	87.1
2019	令和元	悪性新生物<腫瘍>	376,425	304.2	心疾患	207,714	167.9	老衰	121,863	98.5	脳血管疾患	106,552	86.1
2020	令和2	悪性新生物<腫瘍>	378,385	306.6	心疾患	205,596	166.6	老衰	132,440	107.3	脳血管疾患	102,978	83.5
2021	令和3	悪性新生物<腫瘍>	381,505	310.7	心疾患	214,710	174.9	老衰	152,027	123.8	脳血管疾患	104,595	85.2
2022	令和4	悪性新生物<腫瘍>	385,797	316.1	心疾患	232,964	190.9	老衰	179,529	147.1	脳血管疾患	107,481	88.1
2023	令和5	悪性新生物<腫瘍>	385,797	315.6	心疾患	232,964	190.7	老衰	189,919	156.7	脳血管疾患	104,533	86.3

出典: 令和5年人口動態統計

上巻 死亡 第5. 11表 死因順位別にみた年次別死亡率(人口10万対)

上巻 死亡 第5. 12表 死因(死因年次推移分類)別にみた性・年次別死亡数及び死亡率(人口10万対)

死亡割合・死因順位別年次推移(奈良県)

- 全国と同様に、2000年以降は悪性新生物(がん)が死因の1位、心疾患が2位となっている
- 2017年には、老衰が4位にランクインし、2023年時点で3位である

年次		第 1 位		第 2 位		第 3 位		第 4 位	
		死 因	死亡割合	死 因	死亡割合	死 因	死亡割合	死 因	死亡割合
2000	平成12	悪性新生物	31.7	心疾患	16.2	脳血管疾患	12.6	肺炎	8.5
2005	平成17	悪性新生物	31.7	心疾患	18.2	脳血管疾患	10.5	肺炎	10.3
2010	平成22	悪性新生物	31	心疾患	18.7	肺炎	10.6	脳血管疾患	8.8
2011	平成23	悪性新生物	30.6	心疾患	18.1	肺炎	10.4	脳血管疾患	8.9
2012	平成24	悪性新生物	29.4	心疾患	18.3	肺炎	9.9	脳血管疾患	8.5
2013	平成25	悪性新生物	29.7	心疾患	18.2	肺炎	10	脳血管疾患	8.5
2014	平成26	悪性新生物	29.5	心疾患	17.8	肺炎	9.8	脳血管疾患	8
2015	平成27	悪性新生物	29.1	心疾患	18	肺炎	9.9	脳血管疾患	7.7
2016	平成28	悪性新生物	29.6	心疾患	17.9	肺炎	9.7	脳血管疾患	7.3
2017	平成29	悪性新生物<腫瘍>	28.2	心疾患	16.7	肺炎	8.2	老衰	7
2018	平成30	悪性新生物<腫瘍>	27.5	心疾患	18.1	肺炎	7.4	脳血管疾患	6.9
2019	令和元	悪性新生物<腫瘍>	28.1	心疾患	16.6	老衰	8.7	肺炎	7.8
2020	令和2	悪性新生物<腫瘍>	29	心疾患	16.3	老衰	9.4	脳血管疾患	6.6
2021	令和3	悪性新生物<腫瘍>	26.6	心疾患	16.6	老衰	10.6	脳血管疾患	6.4
2022	令和4	悪性新生物<腫瘍>	24.6	心疾患	16.7	老衰	11.9	脳血管疾患	5.7
2023	令和5	悪性新生物<腫瘍>	24.8	心疾患	16.9	老衰	11.4	脳血管疾患	5.9

0～49歳の死亡順位・死亡数・死亡率（年齢階級別；全国）

- 10歳～39歳までの年齢層においては、自殺、不慮の事故等の外因死が多く見られる
- 40歳以上では、悪性新生物、心疾患等による病死の占める割合が大きい

	第1位				第2位				第3位				第4位				第5位			
	死因	死亡数	死亡率	割合(%)	死因	死亡数	死亡率	割合(%)	死因	死亡数	死亡率	割合(%)	死因	死亡数	死亡率	割合(%)	死因	死亡数	死亡率	割合(%)
総数	悪性新生物＜腫瘍＞	382,504	315.6	24.3	心疾患	231,148	190.7	14.7	老衰	189,919	156.7	12.1	脳血管疾患	104,533	86.3	6.6	肺炎	75,753	62.5	4.8
0歳	先天奇形，変形及び染色体異常	464	63.8	35	周産期に特異的な呼吸障害及び心血管障害	188	25.8	14.2	不慮の事故	73	10	5.5	胎児及び新生児の出血性障害及び血液障害	50	6.9	3.8	乳幼児突然死症候群	46	6.3	3.5
1～4歳	先天奇形，変形及び染色体異常	143	4.4	25.7	悪性新生物＜腫瘍＞	57	1.7	10.3	不慮の事故	45	1.4	8.1	心疾患（高血圧性を除く）	24	0.7	4.3	新型コロナウイルス感染症	20	0.6	3.6
5～9歳	悪性新生物＜腫瘍＞	83	1.7	24.4	不慮の事故	46	1	13.5	先天奇形，変形及び染色体異常	39	0.8	11.5	インフルエンザ	22	0.5	6.5	心疾患（高血圧性を除く）	14	0.3	4.1
10～14歳	自殺	120	2.3	25.5	悪性新生物＜腫瘍＞	81	1.6	17.2	不慮の事故	51	1	10.9	先天奇形，変形及び染色体異常	39	0.8	8.3	心疾患（高血圧性を除く）	20	0.4	4.3
15～19歳	自殺	652	12.1	50.3	不慮の事故	172	3.2	13.3	悪性新生物＜腫瘍＞	116	2.2	9	心疾患（高血圧性を除く）	44	0.8	3.4	先天奇形，変形及び染色体異常	33	0.6	2.5
20～24歳	自殺	1,195	20.8	55.2	不慮の事故	260	4.5	12	悪性新生物＜腫瘍＞	167	2.9	7.7	心疾患（高血圧性を除く）	82	1.4	3.8	先天奇形，変形及び染色体異常	32	0.6	1.5
25～29歳	自殺	1,210	20.4	51.6	悪性新生物＜腫瘍＞	223	3.8	9.5	不慮の事故	203	3.4	8.7	心疾患（高血圧性を除く）	129	2.2	5.5	脳血管疾患	40	0.7	1.7
30～34歳	自殺	1,185	19.9	41.9	悪性新生物＜腫瘍＞	437	7.3	15.5	心疾患（高血圧性を除く）	208	3.5	7.4	不慮の事故	201	3.4	7.1	脳血管疾患	103	1.7	3.6
35～39歳	自殺	1,320	19.6	29.8	悪性新生物＜腫瘍＞	951	14.1	21.5	心疾患（高血圧性を除く）	396	5.9	8.9	不慮の事故	283	4.2	6.4	脳血管疾患	277	4.1	6.3
40～44歳	悪性新生物＜腫瘍＞	1,900	25.3	27	自殺	1,570	20.9	22.3	心疾患（高血圧性を除く）	694	9.2	9.8	脳血管疾患	539	7.2	7.6	肝疾患	375	5	5.3
45～49歳	悪性新生物＜腫瘍＞	3,949	44.2	30	自殺	1,935	21.7	14.7	心疾患（高血圧性を除く）	1,594	17.9	12.1	脳血管疾患	1,125	12.6	8.6	肝疾患	780	8.7	5.9

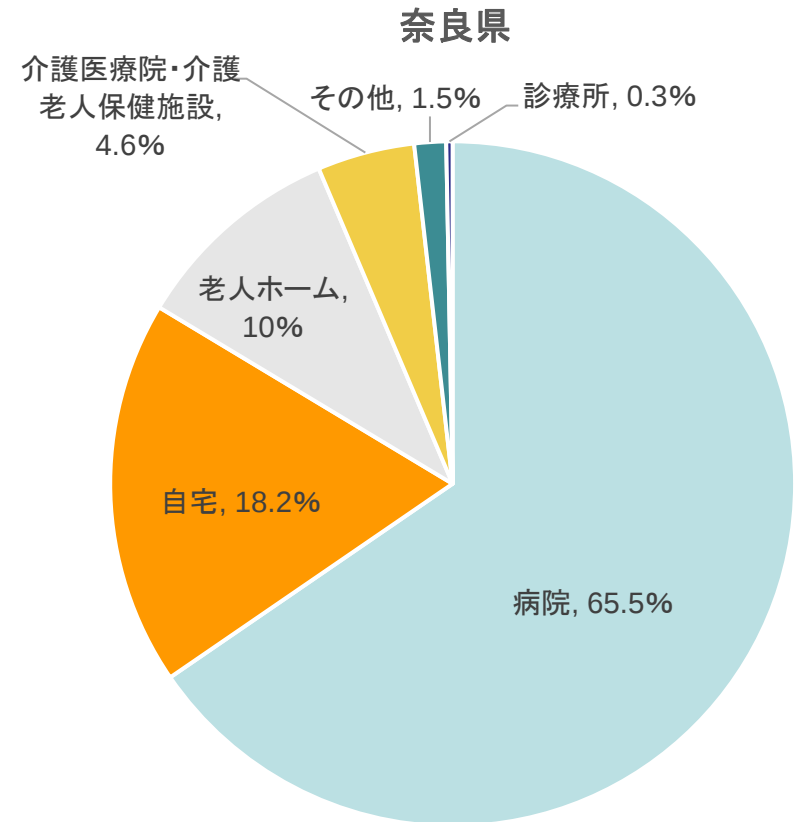
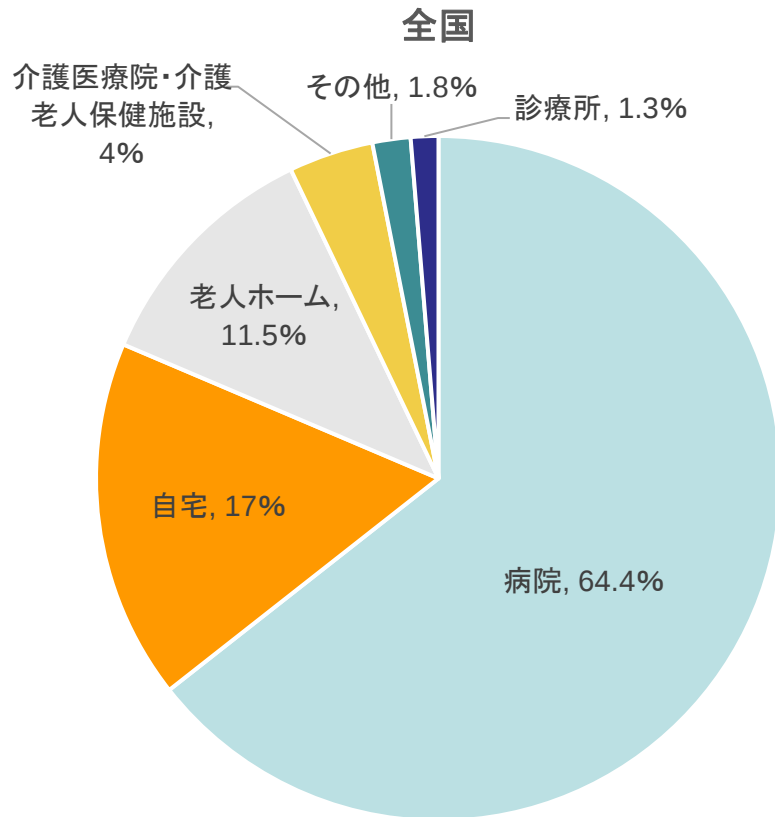
50歳以上の死亡順位・死亡数・死亡率（年齢階級別；全国）

- 65歳～79歳の年齢層においては、不慮の事故等による外因死の割合が一定程度存在する
- 90歳以上では、老衰が1位となっている

	第 1 位				第 2 位				第 3 位				第 4 位				第 5 位			
	死因	死亡数	死亡率	割合(%)	死因	死亡数	死亡率	割合(%)	死因	死亡数	死亡率	割合(%)	死因	死亡数	死亡率	割合(%)	死因	死亡数	死亡率	割合(%)
50～54歳	悪性新生物＜腫瘍＞	7,743	81.7	34.5	心疾患	2,923	30.9	13	自殺	2,217	23.4	9.9	脳血管疾患	1,893	20	8.4	肝疾患	1,267	13.4	5.6
55～59歳	悪性新生物＜腫瘍＞	11,102	136.5	37.8	心疾患	3,978	48.9	13.6	脳血管疾患	2,148	26.4	7.3	自殺	1,851	22.8	6.3	肝疾患	1,392	17.1	4.7
60～64歳	悪性新生物＜腫瘍＞	17,356	234.4	41.4	心疾患	5,646	76.3	13.5	脳血管疾患	2,843	38.4	6.8	肝疾患	1,670	22.6	4	自殺	1,457	19.7	3.5
65～69歳	悪性新生物＜腫瘍＞	28,303	389.9	42.9	心疾患	8,188	112.8	12.4	脳血管疾患	4,272	58.9	6.5	不慮の事故	1,963	27	3	肝疾患	1,768	24.4	2.7
70～74歳	悪性新生物＜腫瘍＞	55,119	628.9	41.2	心疾患	16,516	188.5	12.3	脳血管疾患	8,629	98.5	6.5	肺炎	4,117	47	3.1	不慮の事故	3,816	43.5	2.9
75～79歳	悪性新生物＜腫瘍＞	64,289	864.5	36.1	心疾患	22,923	308.3	12.9	脳血管疾患	11,993	161.3	6.7	肺炎	7,113	95.7	4	不慮の事故	5,317	71.5	3
80～84歳	悪性新生物＜腫瘍＞	69,732	1,187.80	28.1	心疾患	34,240	583.3	13.8	脳血管疾患	17,400	296.4	7	老衰	15,802	269.2	6.4	肺炎	12,576	214.2	5.1
85～89歳	悪性新生物＜腫瘍＞	65,613	1,654.70	20.4	心疾患	49,430	1,246.60	15.4	老衰	38,344	967	11.9	脳血管疾患	22,541	568.5	7	肺炎	19,076	481.1	5.9
90～94歳	老衰	61,322	3,004.50	20.4	心疾患	50,793	2,488.60	16.9	悪性新生物＜腫瘍＞	40,819	2,000.00	13.6	脳血管疾患	19,790	969.60	6.6	肺炎	18,811	921.7	6.3
95～99歳	老衰	48,816	8,190.60	30.9	心疾患	27,391	4,595.80	17.3	悪性新生物＜腫瘍＞	12,839	2,154.20	8.1	肺炎	9,113	1,529.00	5.8	脳血管疾患	9,044	1,517.40	5.7
100歳以上	老衰	18,686	21,478.20	46.8	心疾患	5,844	6,717.20	14.6	脳血管疾患	1,826	2,098.90	4.6	肺炎	1,777	2,042.50	4.4	悪性新生物＜腫瘍＞	1,605	1,844.80	4

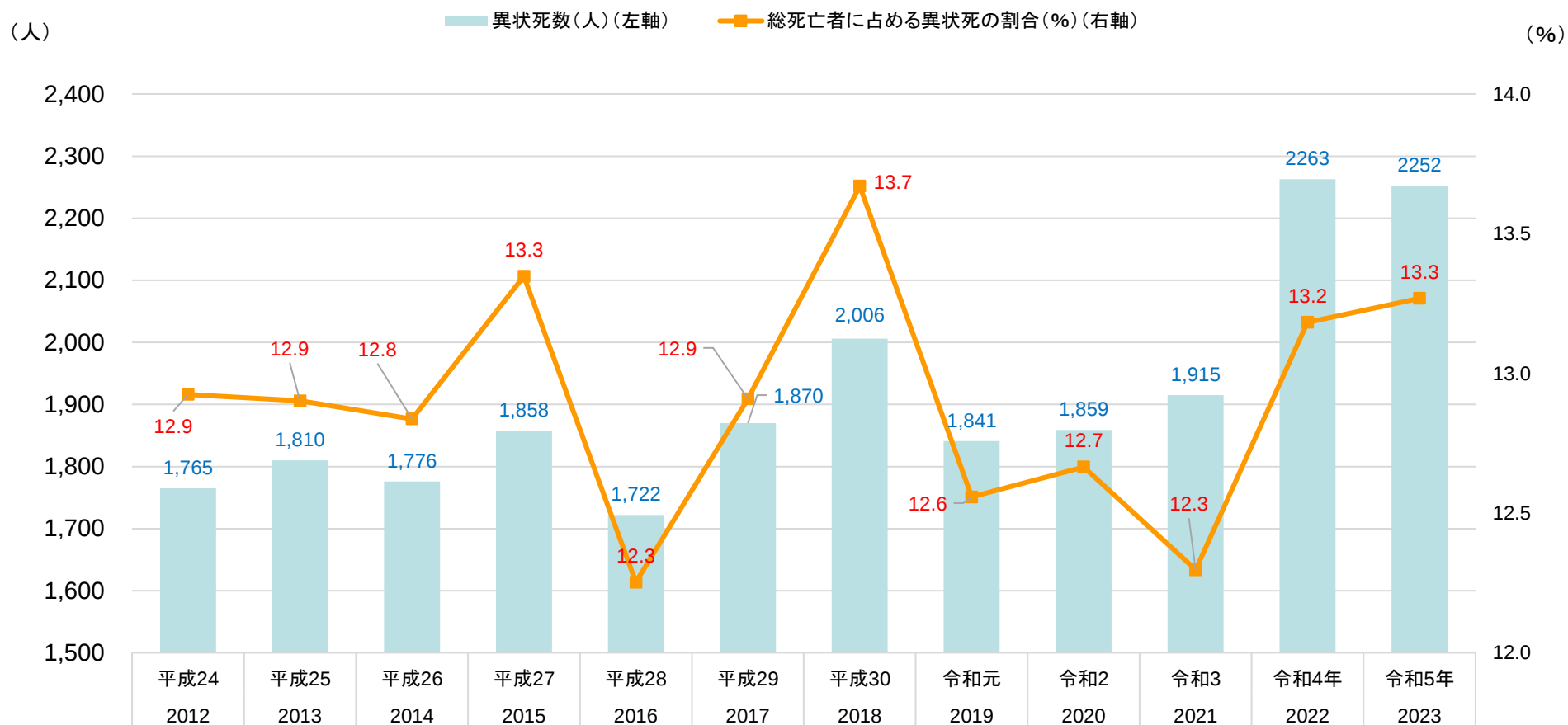
死亡場所(全国/奈良県)

- 全国・奈良県ともに、「病院」での死亡が最も多く、次いで「自宅」が多い
- 全国と奈良県で死亡場所の割合に大きな差はない



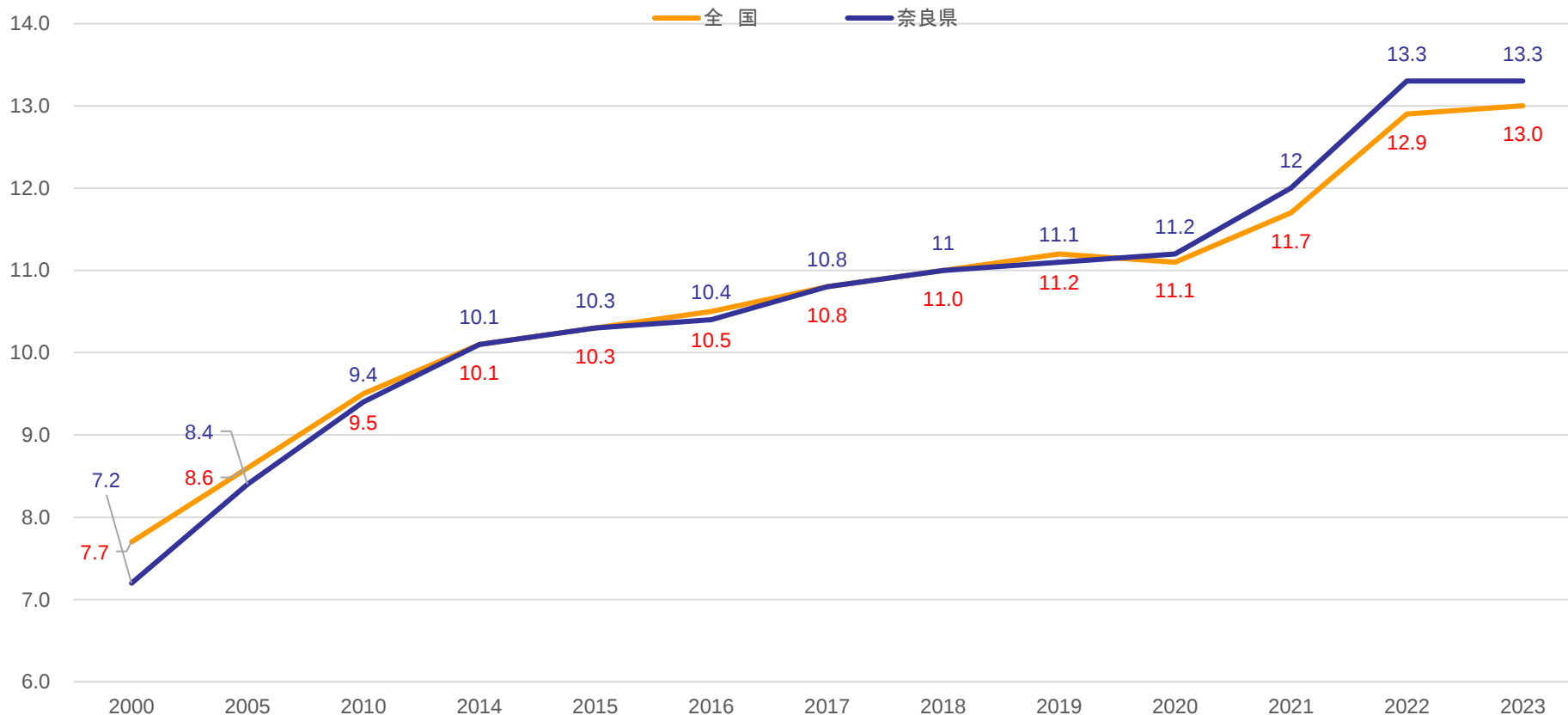
異状死数の推移(奈良県)

- 異状死数は、増加傾向にある
 - 総死亡者に占める異状死の割合は、概ね13%前後で推移している
- ※異状死＝警察にて「検証・見分」「司法検視」「行政検視」が行われた死亡のこと



粗死亡率の年次推移(全国/奈良県)

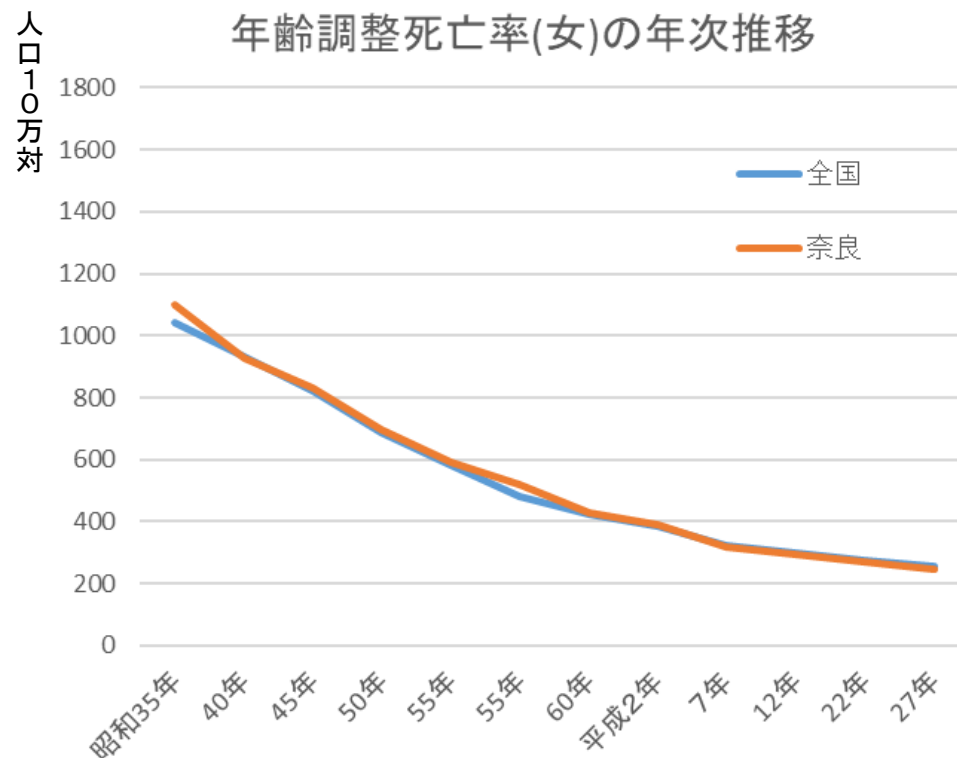
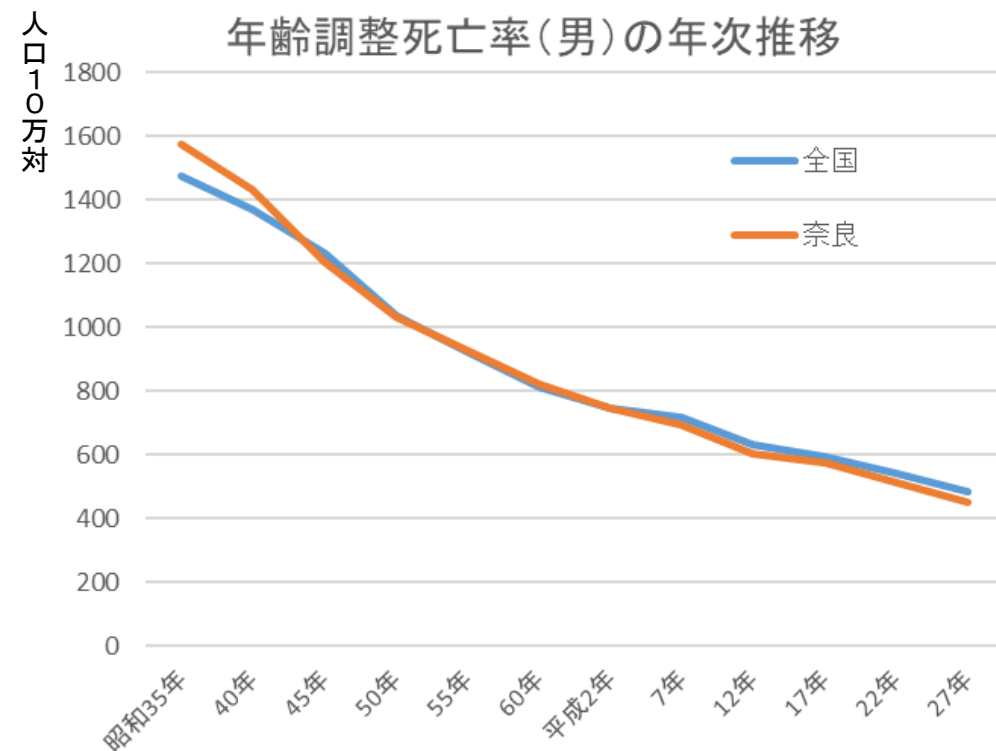
- 粗死亡率は、概ね全国と同様の状態で推移している
- 近年は増加傾向で、2023年の奈良県の粗死亡率は13.3である



※粗死亡率…一定期間の死亡数を単純にその期間の人口で割った死亡率。
年齢調整をしないので、高齢者が多い地域では高くなる傾向がある。

年齢調整死亡率(全国/奈良県)

- 男性・女性ともに、全国とほぼ同様に推移している



最新のデータは、令和2年で、

＜全国＞男:1178 女:1050.4 、＜奈良県＞男:1218.2 女:1030.7 である。

※平成27年までは昭和60年モデル人口、令和2年からは平成27年モデル人口となっている。

出典:平成29年度人口動態特殊統計

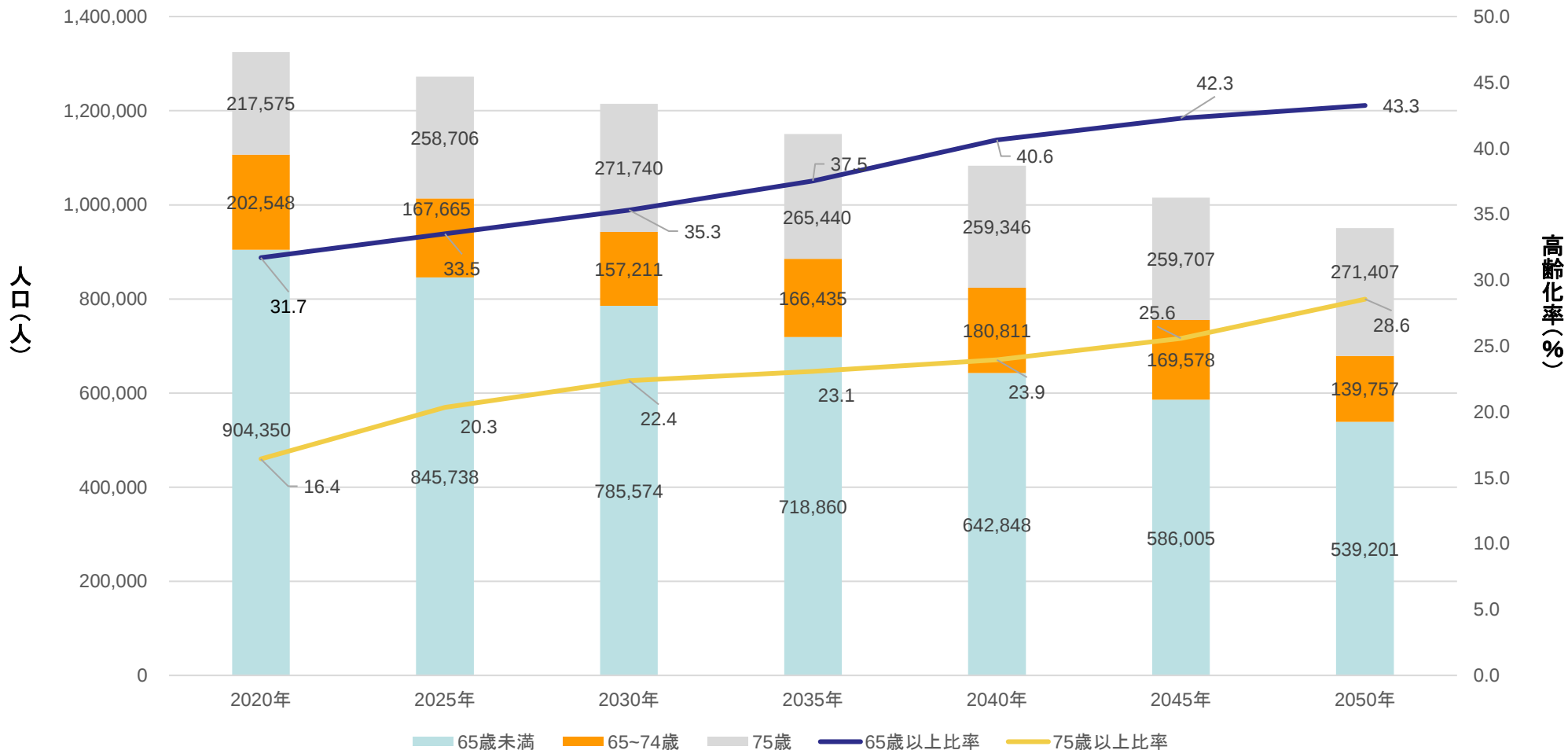
1表 都道府県別年齢調整死亡率(人口10万対),全死因・男女・年次別(昭和35・40・45・50・55・60・平成2・7・12・17・22・27年)

令和2年人口動態特殊統計

表1都道府県別年齢調整死亡率(人口10万対),全死因・男女別

将来人口推計(奈良県)

- 奈良県における65歳以上の人口は、2020年以降約41万人程度で横ばいの状況となる見込み
- そのうち75歳以上の人口は、2025年以降約25万人前後で推移すると予想される



高齢者世帯数の推移及び将来推計(奈良県)

- 2025年頃を境に高齢者単独世帯割合が高齢者夫婦のみ世帯割合を上回る
- 2040年における一般世帯数に占める高齢者単身世帯は20%を超える
→多職種連携により、地域で高齢者を見守る体制の構築が求められる

